

議会報告会実施報告書

開催日時	平成26年4月25日 19時00分 ～ 20時15分	
開催場所	松山公民館	
出席議員	(班長) 東山光徳 (司会) 脇 芳美 (記録者) 松成国宏 (議長) 大前寛乗 (班員) 斉藤義明, 出田泰三, 若谷修治, 脇 芳美, 松成国宏, 東山光徳	
参加市民数	34人	
実施内容	議会報告	<ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 大前寛乗 ・出席議員自己紹介 ・新年度予算の概要 斉藤義明 ・委員会報告 総務消防委員会 斉藤義明 教育民生委員会 若谷修治 市民建設委員会 出田泰三 ・質疑応答 ・意見交換会 ・閉会挨拶
	質疑応答	無し。
意見交換	<p><意見> 防災無線が消防の方にはありますが、放送基準について、警報だけ鳴って、あと、何も放送が無くて、そのままの時がある一方で、内容を言う場合もあります。どういうときにどういう広報活動に使うのか、火災の出動などに使うのかについてお伺いします。</p> <p><答弁> 正直申しまして、答えが良く分かりません。消防の方にお聞きして改めてお答えしたい。</p> <p><意見> 冒頭に議長の方から「子ども子育て会議」について話がありました。これは、国の「待機児童の解消」という事で幼稚園、保育園が縦割り行政で別になっているので、具体的にいつ頃、坂出は発足するのですか。</p> <p><答弁> 「子ども子育て会議」のアンケート調査は、既に行っています。「子ども子育て会議」の全国自治体の状況もそれぞれ違います。その中で国の方から27年度に「子育ての新制度」とい</p>	

うものを発足いたしまして、その中に「幼稚園」「保育園」それから「認定こども園」という三本立てで幼児教育をやっているという流れになっているわけですが、各地域によって色々格差があるわけです。一度には中々いけないと思います。坂出も国から調査依頼がありまして、香川県も8市9町、各々アンケートを取って、幼稚園・保育園・各地域に合った子育て施設という事で、決して全てが子供を一緒にしなくてはならないという訳ではありません。坂出の場合は待機児童がいませんから、それぞれ、保育園は保育園で、幼稚園は幼稚園でやっていったらいいわけで、例えば大都会の東京や横浜や名古屋、大阪、そういった所は確かに「待機児童」という問題が現実には起きているわけで、それを一括りには出来ませんから。国の方から押し付けるような法案ではいけないのではないかと。私的な意見ですから、これは、あまり言えませんが、地域に合った子育ての施設が出来るように、みんな、地域と共に、小さなお子さんを育てていくというシステムにしていただきたいと思っております。制度自体は平成27年度スタートとなっています。

<意見> それでは平成27年度から坂出はやると理解していいわけですね。

<答弁> そうですね。保育園は保育園で、幼稚園は幼稚園で3歳児頃まで保育園で、それ以上は幼稚園と保育所を一緒にした総合システム施設のようなものが出来る可能性はあります。それ以外は地域でやっていく。坂出の場合は、其々でやっていくと思います。

もう1点、「子ども子育て会議」がちょっと分かりづらいということですが、新制度を導入するために、この「子ども子育て会議」条例には前段に、いわゆる、委員会がついている訳です。各保育園、幼稚園、PTA、小学校から委員が選出され、坂出市内の地域に一番ベストな、子供たちが育っていける様な施設を平成27年に向けて考えていくのが委員会の役割です。坂出は坂出の問題がありますし各地域の実情があります。皆さんの意見を聴取してから新制度へ導入していくというのが国の方針です。その前段の条例が「子ども子育て会議」という条例です。

<意見> 要望ですけれども、この地域は後ろが山で前が海ということで、地震災害、土砂災害、池の災害、すべて想定されるわけですが、市の災害マップはそれぞれの立場で出している。それを一体として、どこが窓口になるのか分かりませんが、我々の所は避難場所など具体的には全然進んでないわけです。ですから、市がやっぱり、県か市かどちらが先に立つのか分かりませんけれ

ども、一体となった防災マップを作ってほしい。縦割り行政の一番の弊害だと思いますがいかがですか。

<答弁> 今の質問については、我々も総務消防委員会の中で議論しました。高潮対策、土砂災害、其々災害の種類によって避難場所も全部変わってくる。市民の方は災害と言ったら今、全部、一緒に考える。それを、どのように、皆さんにご理解頂けるようにするのか。理事者側に対して、一体化したハザードマップを作れないかという話をしましたが、出来ないという回答でした。災害によって認識してくださいということで、津波だったらこうしてください、土砂崩れだったら、このように対応して下さい。これらを一体化して表すのは、むしろ誤解を与え危険なので、そういう事は出来ませんと言うのが危機監理室のお答えです。そして、市民の方が理解しがたいということであれば、ご説明させてほしいということです。自治会の方々とお話が出来るのであったら、喜んで、出向きますので説明させてください。ということを経済監理室の答弁としていただいています。

<意見> ハザードマップは2, 3枚も配布されている。家中張らないといけない。色を違って出すとか何とかして下さい。重複して災害が起こる事もあるだろうから。災害は必ず重複して起きる。それは一つ検討をお願いいたします。

<答弁> これは、我々も一つの課題だと思います。要望としてさらに、議会として調整していきたいと思います。

<意見> 避難場所の表示は決まったのですか。ここは何町の避難場所ですという。

<答弁> そこは、まだ、出来てないと思います。

<意見> もし、出来るのであれば、洪水や地震の時はここと表示をしてはどうか。今、サービスエリアなどでも、レストランのマークとか有るじゃないですか。ここは何の避難所か、市民に分かるようにしたら良いのではないかと。私の考えですが。

<答弁> 今、お話があったようなことについて、避難場所を指定してと言われるのですが、我々も質問しましたが、場合によって危険な所が出来るのです。一つ指定をしてしまうと、「何がなんでも、そこへ逃げる」という形が出来てしまいます。ですから、むしろ、災害が起こる前、早くから避難の指示が出てきます。単に坂出市だけが、避難の指定を叫ぶというのではなくて、マスコミからもそういう危険を察知して、逃げる体制を作ってください。と、危機監理室の方が言っているわけです。どうしても逃げられないのだったら、高い所へ行くしかありません。例えば、津波ですと、高層ビルに行きますね。入ってはダメだというふうに否定は

しません。今、言われた避難場所の分かりやすい地図も要望していきたい。また、ぜひ、防災組織で訓練して頂く事です。ハイキングがてらで良いと思います。ハイキングがてらに、「今回、ここへみんなが集まって避難して行かんか。」というふうな事を徐々にやっていただいて、そういう意識をどんどん皆さん方で持っていただきたい。そして、その中で、お年寄りなど介助が必要な方にも声掛けをしていけるような体制にしていかなければならないと思います。今、自助・共助も非常に言われていますので、出来るだけ自分の身は自分で守る。近所の人達は、一緒に見守ってあげる。こういう事が大事じゃないかと思います。非常に貴重なご意見なので、持ち帰って、要望していききたいと思います。

<意見> 議員定数について、私はむしろ増やしたらいいと思うのです。議員さんは好かんと思いますが、給与を半額とか三分の一くらいにして議員を増やしたらどうでしょうか。議員さんがいなかったら、王越とか、廃ってしまって、小学校は無くなってしまって、困っていると思うのですが、どうでしょうか。

<答弁> これは、元々、人口割合で議員定数を決めていたわけですが、平成24年度に自治法の改正が行われました。改正前は人口5万から10万は、坂出市の場合も30名だったのです。議員数の上限がですね。そこから、いわゆる、昭和58年に30名でしたが、平成7年に28名に減って、平成11年に26名になった。平成15年には24名に、平成23年には現在の22名になったという事で、解答というのはいないのです。人口とか面積とか財政力だとか市が抱える色々な課題、さらに、類似都市、近隣都市などとの比較検討を行ったうえで決めていくという条文が、議会基本条例の第20条にあります。今、言われていました王越のように、議員が出ていない所もある。また、集中している所もある。という事で、本当はバランスよく各地域に議員が居ればいいのですが、実態としては、地域の実情とは離れている部分があります。でも、ただ、「議員を減らしたらエエが。なんぼでも減らしたらエエんじゃが」、とか感情的にははいけないと思います。

<意見> いや。私は、むしろ増やしたらいいと言っているんですけど。

<答弁> 上限がありませんから。いま、議員の皆さんもおられますけれども、なんでもいから居ればいいのだ。というのでもないと思います。議員間で論議して、「一人でも増やさないかな」となれば、また、増やす事も出来るわけです。

<意見> 給与を半額カットとかして、名誉職みたいにするのは、いかがですか。

<答弁> 報酬の場合も、議員定数と並行して、よく言われます。報酬がはたして妥当かどうかという問題もあります。各地方自治体でも難しい問題です。現実にはどこも課題を抱えています。議員になかなか出てくれない。若い方が育ってこない。というのは、報酬が問題になります。高いか安いかと言うのは、価値観の違いとか色々ありますが、子供が3人いて、大学へ行かせたりしている人が議員になったら、それだけでも大変なのです。そう考えると、今の報酬というのも見直していかなければならない。私自身、答えるのが、中々難しいですね。報酬も客観的にどのあたりがベストかと言うと、なかなか答えが出ないものでございます。やっぱり基本条例に則って、皆さんに説明して、意見をいただきながらやる。調整していくというのが、ベストだと思います。

<答弁> 議員の定数の問題について、ただ、大勢いるのも、悪い事ではないと思いますが、議会活動は、今の時代、片手間ではなかなかできない。市長も我々議員も選挙で出て来ている。議会と市長とは車の両輪。いくら大勢の議員がいても片手間では理事者側に押されてしまって、対等な議会活動が出来ないと思う。そうすると、ある程度の生活給ぐらひは、他の仕事を放っておいてするわけですから。片手間では市長側と議会側と対等にやる事はできない。議会が舐められてしまう。そういう事で昔の名誉職的な議会は今は、もう通らないと思います。

<意見> 資料に、にぎわい創出で夕焼けジャズコンサートとあります。松山地区では、ジャズコンサートに参加する機会がないもので、この辺でも、夕焼けコンサートを聴きたいなと思います。

もう1つ、婚活の事なんです。わたしの友達が独身で、出会いが、なかなか無くて結婚したくても、できない。今、坂出市での婚活のプロジェクトをされていると言うんで、どのような状況になっているのかについて聞きたいと思います。

<答弁> 婚活プロジェクトというのは、昨年度に坂出商工会議所青年部に、にぎわい補助事業として手を挙げて頂いた。民間で我々がやりたいということで、公募していただき、プレゼンテーションをやって、民間委員も含めた中で「これは良いね」と認められた事業で、初めてのシステムです。公でやっているということではないのですが、若い方がこの頃、なかなか結婚しない中、出会いを作っていこうと。会議所の青年部が、将来的には人口増につながるんだという信念をもって、今年もやりたいということです。皆さんの意欲でやって頂くことが一番大事ななと思っております。この取り組みがもっと広がっていけば一番良いなと思います。

それと先ほど音楽の話がありましたが、私も音楽、非常に大好きで、去年も街中でジャズコンサートとかやりましたが、皆さんに手を挙げて頂いて、やりたい人に支援していこうという事で、今回は SKG のコンサートが企画されています。SKG は坂出でもう 50 年近くの歴史があるんですが、活躍する機会がどんどん減ってしまっているんですね。私も、知り合いの方を通じて相当お願いし、出ていただいた。今までみたいに市が主催した事業で、取り巻きみたいな感じでイベントをやって、果たしていいのかという思いがありまして。これから、皆さんにまちづくりに参画していただくための「にぎわい創出」です。去年度からスタートしたのですが、非常に良い制度だと私は思いますので、これが、もっともっと、予算がついて、それこそ、俺たちの地区でもやってみようかと。どんどん若い人、色々な方に、手を挙げていただくことが一番の趣旨でありますので、来年は是非、応募していただきたいと思います。

<答弁> 各地区のにぎわい創出という事で、今年から市長が始めました出前市役所で、色々お話しする中で、提案して行って、若い人達が、「こんなことをやりたい」ということを出前市役所を利用しながらやっていけば、町のにぎわいにつながっていくのではないかと。皆さん方に活発にやっていただければ、本来、市長がいう出前市役所の機能もどんどん、発展できるのではないかと。という気がします。

<答弁> 婚活の部分について、昨年、婚活イベントを商工会青年部が企画し、男性が 50 名と女性が 47 名か 48 名の出席で開催しました。そのうち 26 組が、カップルとなりお付き合いをされているという事です。今年もイベントが予定されていて、広報と一緒に配布されますので、ぜひ参加して頂くように、お願いします。